

令和3年4月より、円形野球場の供用時間が延長(9:00～17:00→9:00～21:00)されるとともに、照明設備が付加されます。

また、第3多目的グラウンドが、パークゴルフ及びターゲットボードゴルフの兼用コース、グラウンドゴルフ場として、令和3年9月から供用開始となります。

なお、毎年ゴールデンウィークに同公園で開催されております 野外ロックフェスティバル「JAPAN JAM」については、明年、規模が拡大され3日間から4日間の開催となりました。“野外フェスといえば蘇我”との名物イベントとなるよう、今後とも応援してまいります。



# さかい通信 2020 秋号



新型コロナウイルスの感染によりお亡くなりになられた全ての皆さまに哀悼の意を捧げるとともに、傷病中の皆さまの一日も早い回復をお祈り申し上げます。

また、今日まで、そして引き続き、医療の最前線で戦ってくださっております医療従事者の皆さまをはじめ、介護士や保育士、スーパーやドラッグストア、公共交通 機関、清掃業、配送業など、社会インフラ維持のために従事する、全てのエッセンシャルワーカーの皆さまへ、改めて感謝を申し上げます。

## コロナ禍の支援策、相談窓口

※9月以降、継続中もしくは新たに始まった国、県、市の主な支援策をまとめました。(10月15日現在)

暮らし	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 緊急小口資金、総合貸付資金の貸し付け ⇒ 市社会福祉協議会: <b>043-209-8780</b></li> <li>● 家賃が払えない人の為の「住居確保給付金」⇒ 中央区の方: <b>043-221-2147</b></li> <li>● 社会保険料、所得税、光熱水費などの減免や支払い猶予</li> <li>● 「ひとり親世帯」に5万円の追加給付 ⇒ 申請期限はR3年2月</li> <li>● GIGAスクール構想・端末整備、貸し出し用Wi-Fiルータの整備</li> </ul>
雇用	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 雇用調整助成金(R2年12月まで延長)</li> <li>● 中小企業の労働者が直接申請できる休業支援金(R3年3月まで延長)</li> </ul>
事業継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 千葉市中小企業者事業継続給付金(前年同月比20%以上50%未満の事業者)に20万円) \ <b>NEW!</b></li> <li>● 千葉市習いごと応援キャンペーン(50%割引分を助成) ⇒ 事業者募集は11月末まで \ <b>NEW!</b></li> <li>● 法人に最大200万円、個人事業主に同100万円の持続化給付金(R3年1月15日まで)</li> <li>● 20～40万円支給される県の中小企業再建支援金(要件追加、R3年1月末まで)</li> <li>● 法人に最大600万円、個人事業主に同300万円の家賃支援給付金(R3年1月15日まで)</li> <li>● 固定資産税など減免、セーフティネット貸付・保証枠などの要件緩和</li> <li>● 政府系、民間金融機関での実質無利子・無担保融資</li> </ul>
医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 医療・介護・障がい福祉サービス従事者に5万～20万円の慰労金</li> <li>● 妊産婦総合対策(分娩前PCR等検査費用助成、保健指導等のオンライン化)</li> </ul>

## 感染予防と社会・経済活動の両立を!

### ●“ウィズコロナ”互いに意識を

日常的な「手洗い、うがい、マスク着用」の実践はもとより、体調が悪いときは外出を控える、「3密」を避ける、外食・買い物・旅行する際は十分な対策をとる、といった「新しい生活様式」を互いに意識してまいりたいと思います。

### ●災害時は分散避難を

避難所は密の環境になりやすいため、親戚や知人宅などへの分散避難が推奨されております。なお避難時は、マスク、除菌アルコール、体温計をお持ちください。

### ●予防接種費用が助成されます

#### インフルエンザ予防接種

全世代を対象に、インフルエンザワクチンの予防接種の費用が助成されます。接種期間は**本年12月31日まで**。助成額は**接種費用から1,800円を除いた額**。

#### 高齢者肺炎球菌予防接種

これまで肺炎球菌ワクチンを接種したことがない**65歳以上の全ての方が対象**。自己負担額は**3,000円**。

### ●Go Toキャンペーンの活用を

コロナ禍で経済的に大きな打撃を受けた観光業界、飲食業界等を支援するキャンペーンが始まっております。

トラベル事業は、旅行代金の50%に相当する額を支援するもので、イト事業では、①25%を上乗せして飲食できる食事券の販売、②オンラインの飲食予約サイトで来店した客に最大1000円分のポイントを付与、の二つの事業を実施。コンサートなどのチケット代を支援する「Go Toイベント」も順次開始されます。是非ご活用ください。

### ●“千葉市習いごと応援キャンペーン”も

千葉市では、経済対策の一環として「文化・教養・生涯学習」「スキルアップ・資格取得」「スポーツ・健康づくり」等の講座、サービスを50%割引で提供する「千葉市習いごと応援キャンペーン」を今月からスタート。約3,000種類の講座、サービスが対象となっております。こちらをご利用ください。



厚労省HPより

予防接種詳細は市ホームページを参照ください。



### 事業者向け臨時相談窓口

(中小・個人事業主向け 国・県・市の支援内容相談)  
平日 9:00～17:00

**043-245-5898**

### 接触確認アプリ「COCOA」

陽性者と接触した可能性がわかることで、保健所のサポートを早く受けることができます。



### 心のケア相談

(不安や不眠、憂うつな気持ちが続いている方)  
平日 9:00～17:00

**043-204-1582**

平日 17:00～21:00  
土日祝 13:00～17:00

**0570-010-400**

※SNS(LINE)による相談



### お困りごと電話相談窓口

(利用可能な支援・制度がわからない方向け)  
平日 9:00～17:00

**043-245-5187**

### 帰国者・接触者相談センター

(息苦しさ、強いだるさ、高熱等の症状がある方)  
平日 9:00～19:00  
土日祝 9:00～17:00

**043-238-9966**

市政に関するご意見、ご要望など、みなさまの声をお聞かせください。

千葉市議会議員 **酒井 伸二** | 〒260-0822 千葉市中央区蘇我3-5-14  
Tel/Fax. **043-268-7120**

ホームページは「酒井伸二」で検索ください! <http://www.facebook.com/sakai.cc> e-mail: [sakai\\_chiba@ko-mail.jp](mailto:sakai_chiba@ko-mail.jp)

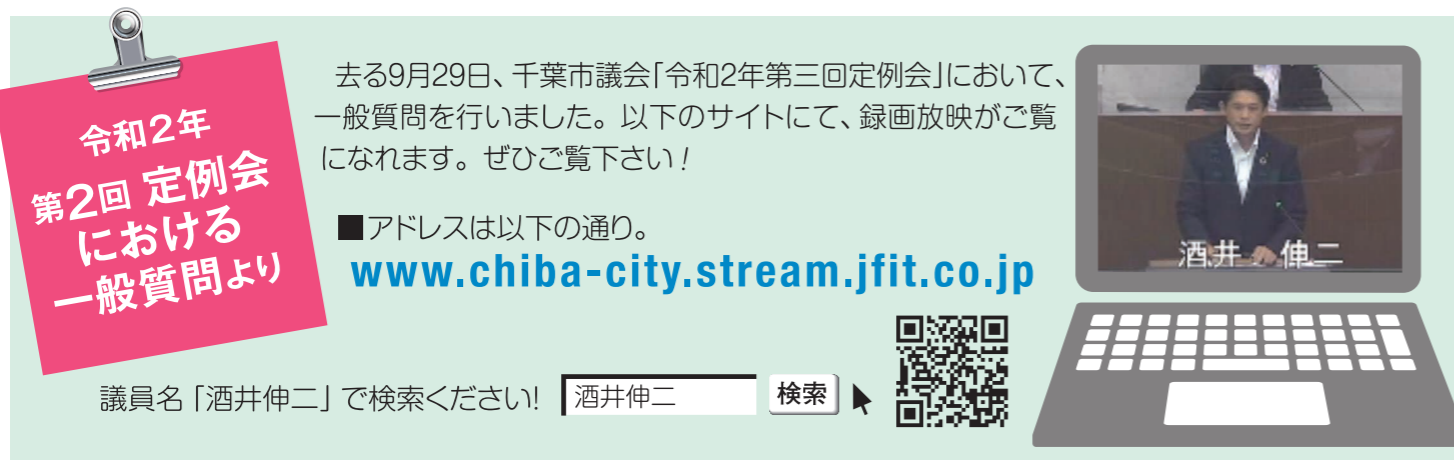


**令和2年 第2回 定例会 における 一般質問より**

去る9月29日、千葉市議会「令和2年第三回定例会」において、一般質問を行いました。以下のサイトにて、録画放映がご覧になれます。ぜひご覧ください！

■アドレスは以下の通り。  
[www.chiba-city.stream.jfit.co.jp](http://www.chiba-city.stream.jfit.co.jp)

議員名「酒井伸二」で検索ください！



## ■コロナ禍とSDGsの推進

SDGsとは、国連が2030年までの達成を目指す持続可能な開発目標、Sustainable Development Goalsの訳であります。地球環境と人々の暮らしを持続的なものとすべく、17分野の目標からなります。「地球上の誰一人として取り残さない」という基本方針のもと、環境、社会、経済の三側面が不可分のものとして、各国、各分野でその実現に向けた取り組みが進められております。

さて、この度の新型コロナウイルスの感染拡大。その要因を巡っては、熱帯雨林の乱開発や地球温暖化などを背景に、いわばウイルスと共存していた自然の領域に人間が踏み込んだ結果と指摘する論調が、多くの識者から聞かれます。東京大学グローバル・コモンズ・センターの石井菜穂子氏は、「私たち人間の生き方が地球の限界とぶつかった。経済活動が自然の体系を壊さずに済むようにしないとイケない。そうした『人新世』に生きている自覚が必要です。」と指摘。「人新世」とは、人類の活動が生態系や気候に与える影響がふくらんだ結果、地球の状態を人間が支配する新たな地質年代に入ったとする考え方であり、改めて、環境、社会、経済のバランス、持続可能な開発について私たち一人ひとりが真剣に考えなければならない時を迎えております。

また、こうした自然、環境への配慮と合わせ、コロナ禍で問われているのが、他者への配慮、思いやりといった意識と行動の変容であります。自分たちさえ良ければいいという利己的な考え方は通用せず、他が良くならなければ結局自分のところに戻ってくる。グローバルな協調がなければ対処できないというこの構造は、決して国レベルの話ではなく、私たちの暮らし、地域においても同じことが言えると考えます。

そして本来、それらの処方箋として示されてきたのがSDGsであります。まずは自治体（行政機関）こそが、その達成に向けた取り組みに積極的に取り組むべきであり、市民への啓発に一層力を注ぐよう求めました。

当局からは、今後の中長期的な行政指針となる次期基本計画において、SDGsの理念も踏まえた施策検討を行うこと、次期環境基本計画ではSDGsの考え方を最大限反映させること、SDGsの一環であるスーパーシティ構想についても、積極的に進めていくとの答弁がありました。

## ■オンライン化と「デジタル・ミニマム」の推進

コロナ禍における社会変容の中でも、象徴的なものがオンライン化の普及と言えます。そこで、市民からの問い合わせにAIで自動回答するチャットボットの活用や、法律相談や住宅相談、療育相談など、現在対面式で行われている相談事業の一部オンライン化を提案するとともに、学校教育におけるGIGAスクール構想（児童生徒に一人一台の端末整備）において、Wi-Fi環境の有無による差や通信料の負担感など、万が一にも家庭における通信環境によって、学習環境に差異が生じることがないように求めました。

また、デジタル化の進展に伴い、全ての人が最低限必要な技術を使えるように保障する「デジタル・ミニマム」の理念が求められております。高齢者や障害者に対してデジタル機器の利用をサポートする「デジタル活用支援員」の実証事業も各地で始まりつつあり、本市の取り組みを問いました。

当局からは、AIチャットボットの導入、相談事業のオンライン化に取り組むこと、GIGAスクール構想においては貸し出し用Wi-Fiルータの確保に努めること、デジタル活用支援員実証事業の本市での実施について検討することが表明されました。



## ■地域の交通環境の改善を！

### ◆まちなかへのベンチ整備の加速

3年前の提案以降、昨年4月に「歩行空間のベンチ設置計画」が策定され、これまでに駅前広場に予定数122基の内、32基が設置され、生活関連道路については予定数365基の設置に向け、今年度着手されます。一方、バス停へのベンチ設置については、事業者等への支援制度を検討するとされたまま、進展が見られないため、促進を求めました。

当局からは、関係機関と調整を図っており、調整が整い次第、支援を開始するとの答弁がありました。

### ◆具体事業の早期実施

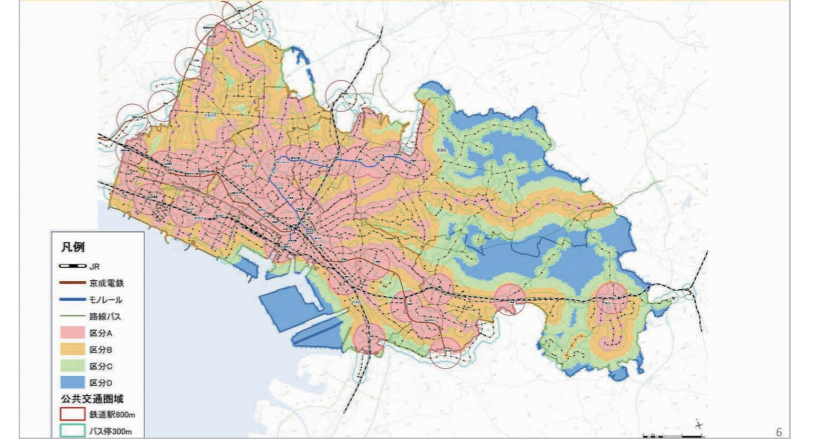
8月の地域公共交通活性化協議会において、(右図の通り) 鉄道駅やバス停からの距離を元にA～Dまで4段階で区分案が示され、最も条件が厳しい区分Dが交通不便地域に設定されております。なお、距離の基数は、鉄道駅から半径800m、バス停から半径300mであり、本市の人口カバー率は約89%とされております。一方、私が昨年の議会質問で触れた大阪・堺市では、乗り合いタクシー事業などを付加することにより、カバー率98%を達成。仮に98%とするには、区分B、Cへの支援策も必要となります。そこで、人口カバー率を上げるべく全ての区分への支援策の実施、早期の具体事業化を求めました。

当局からは、バス運行情報等のオープンデータ化やモビリティマネジメントと合わせ、社会実験モデル地区の抽出と具体事業の着手について、協議・調整が整い次第、実施していくとの答弁がありました。

### ■サービス水準に基づくエリア区分（案）

#### 公共交通サービス水準に基づくエリア区分

○公共交通カバー領域（条件1）及びアクセシビリティ指標（条件2）を踏まえ、エリア区分を4つ（区分A～D）に設定します。



## ■人と動物の共生する社会を目指して

「動物にやさしい社会は、きっと人にもやさしい。」私たちのまちが、そんな懐の深さ、豊かさを感じられる社会であってほしいと願うものであります。自然や生き物との共生、他者を思いやる、多様性や包摂性が問われるコロナ禍だからこそ、との思いで質問を行いました。なお、本件についてはここ3年程、関係者からお話を伺い、ボランティアの方との勉強会、獣医師会の方々との懇談会、更には神戸市の他、3度に渡る(先進市である)川崎市の視察など、調査・研究を重ねて参りました。千葉市では、動物保護指導センターの再整備が模索されておりますが、本当に良いものを目指してほしいと思います。

さて質問では、地域から寄せられる動物に関する苦情・相談の実状、地域猫への対策強化、高齢者とペットの問題への対応、風水害時の同行避難等について問うとともに、負傷動物の対応における獣医師会、ボランティアの皆さんとの連携、狂犬病予防集合注射の見直し、現センターにおける獣医療レベルの向上や施設の改善など、多岐に渡る課題提起、提案を行いました。(詳細は録画放映、議事録等を是非とも参照ください。)

当局からは、一つ一つの諸課題に前向きに取り組むこと、風水害時の避難所増に努めること、保健福祉全体の柔軟な対応体制の検討、センターの業務・体制の再検討、ボランティアの皆さまとの協働の体制づくり、センター再整備にあたり動物福祉への配慮及び先進的知見を取り入れるといった答弁がありました。

本市のアイデンティティの一つ、加曽利貝塚。そのマスコットキャラクターは、「かそりーぬ」(という犬)です。縄文の時代、(大切に埋葬されるなど)動物を含む自然と、実に長きに渡って共生を果たしてきた本市だからこそ、国内外に共生の模範を示すべく持続可能な社会の拠点施設と位置付けることで、どの都市にもない、本市ならではの全く新しい施設にもなり得ると考えます。

今後とも、より良い成果が生み出せるよう尽力してまいります。



一昨年にリニューアルした川崎市動物愛護センター